

つくほ治療院新聞

通巻6号

新型インフルエンザ発生

メキシコで新型の豚インフルエンザ発生が報道されてからまもなく一ヶ月が過ぎようとしています。今の世の中は交通機関が発達し、どこかで発生した感染症も、あつと言間に拡大してしまい、今では世界で六千人以上が感染し、六十五人の死者が出ました。(14日現在)

本来インフルエンザは、鳥↓人や豚↓人には感染しませんが、97年に香港で鳥↓人が確認されたことにより、近いうちに新型のインフルエンザ



芒種

(ぼうしゆ)

二十四節季

旧暦五月午の月の正節で、新暦の六月五日です。芒種とは、芒(のぎ)のある穀物を植えつける季節を意味していますが、農家はことのほか多忙を極めるころです。

が流行するかもしれないと騒がれだしました。18年のスペイン風邪・57年のアジア風邪・68年の香港風邪のように、インフルエンザは30〜40年の間隔で猛威をふるって来ましたので、周期的にもそろそろ突然変異を起こす可能性が高いというのも手伝ったのかもしれない。インフルエンザにはA B Cと三つの型があり、流行するのはAとB型、世界的流行を起こすのはA型のみです。

何故かという、A型は人だけでは



なく、鳥・豚・馬など幅広い宿主を持つているからです。今回のウィルスもスペイン風邪の子孫と言われています。基本的にウィルスは同種の宿主で生存しています。鳥インフルエンザも鶏では致死的になりますが、カモやアヒルでは病気になるかもしれません。これだけ世の中が騒いで予防接種や薬に莫大なお金をかけて戦ってきた相手は、姿を変えて生存し続けるのですから、共存を考えた方が得策な気もしませんか？



『相手を思いやる心を育てよう』

韓国には「カササギの餌」という言葉があります。どんなに貧しいときでも、秋の日に実る柿を全部取ってしまわず、一つ二つはカササギのために残しておく、その“ゆとりの精神”を韓国の人は大切にしてきました。かつて貧しかった日本にも、同じような話や精神がありました。この心は、豊かになつたからといって、捨ててしまつてよいものではありません。

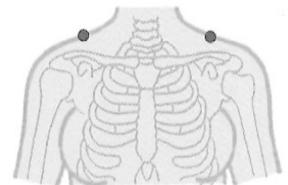
豊かな時代ゆえの、心の歪みや貧しさも指摘されている今日、むしろ貧しい時代の日本で発揮されていた“相手を思いやる心”をもう一度取り戻し、子供たちの心の中に育てていかなければならないでしょう。

「一日一話」より

肩井

(けんせい)

「井」は井戸のこと。「肩」を巡っている全身の活力となるエネルギーが湧いてくる、まるで「井戸」のようなツボという意味で名づけられました。首の根元と、肩先とちようど真ん中にあります。このツボを中心に、首筋、肩の先にかけて処置する技法を「肩井の術」と呼ぶくらい、肩のツボの中ではもつとも重要な場所。肩が凝ると、無意識に押し込めている人も多いためです。首や肩の凝り、五十肩、寝違えはもちろん、目・耳・歯の諸症状、頭痛、めまいにも効くとされます。



6月の定休日

○印はお休みです

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				



